

## 2025年版 中堅・中小企業のITアプリ開発ツール利用実態と展望レポート

中堅・中小のユーザ企業(年商500億円未満)を対象とした有効回答1300社の調査を実施し、RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の状況を年商別、ならびに10分野の業務アプリケーション分野毎に集計/分析、さらにユーザ企業とIT企業の双方におけるツール活用の課題やニーズも網羅。

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1 ~ 2ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	3 ~ 15ページ
集計データと試読版:	「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒	16 ~ 27ページ

## 【調査レポートで得られるメリット】

1. 年商/業種/従業員数/所在地といった様々な観点で市場動向を把握することができます。
2. 収録されている集計データをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

価格: ¥225,000円(税別) 発刊日: 2026年3月30日

お申込み方法: 弊社ホームページから、またはinform@nokresearch.co.jp宛にご連絡ください

## 調査対象ユーザ企業属性(1/2)

本調査レポートでは以下のような属性に合致する1300件(有効回答件数)の中堅・中小企業を対象とした調査を行っている。

**有効サンプル数:** 1300社(有効回答件数)

**A1.年商区分:** 5億円未満(200社) / 5億円以上~10億円未満(200社) / 10億円以上~20億円未満(200社) / 20億円以上~50億円未満(200社) / 50億円以上~100億円未満(200社) / 100億円以上~300億円未満(200社) / 300億円以上~500億円未満(100社)

**A2.職責区分:** 情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決裁の権限を有する職責

**A3.従業員数区分:** 10人未満 / 10人以上~20人未満 / 20人以上~50人未満 / 50人以上~100人未満 / 100人以上~300人未満 / 300人以上~500人未満 / 500人以上~1000人未満 / 1000人以上~3000人未満 / 3000人以上~5000人未満 / 5000人以上

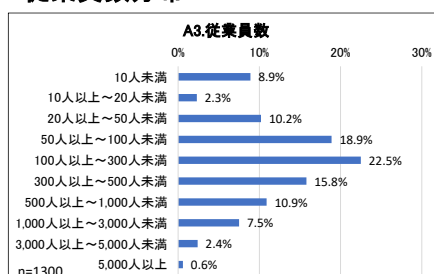
**A4.業種区分:** 組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 流通業(運輸業) / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

**A5.所在地区分:** 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

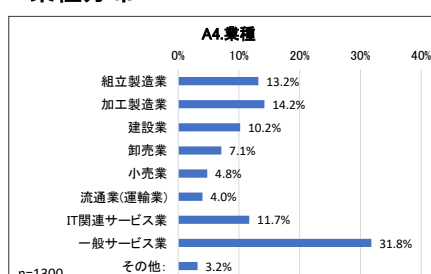
**調査実施時期:** 2025年7月~8月

上記に加えて、「**A6.IT管理/運用の人員規模**」(IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか?人数は1名/2~5名/6~9名/10名以上のどれに当てはまるか?)および「**A7.ビジネス拠点の状況**」(オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2~5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか?ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか?)といった属性についても尋ねており、A1~A7を軸として、以降に述べる全ての設問を集計したデータが含まれる。以下の3つのグラフは調査対象1300社の「従業員数」「業種」「所在地」分布である。中堅・中小市場の幅広い企業が対象となっていることが確認できる。

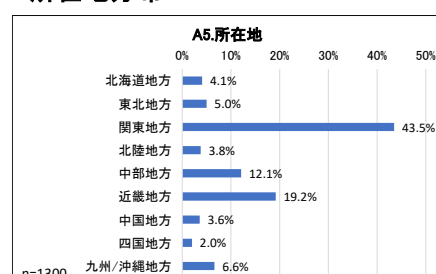
従業員数分布



業種分布



所在地分布



## 調査対象ユーザ企業属性(2/2)

「A4.業種区分」の詳細な定義(各業種区分に含まれる具体的な業態)は以下の通り。

組立製造業:	一般機械器具製造業(産業用機械機器など) / 電気機械器具製造業(発電機、蓄電池、民生用電気機械機器など) / 情報通信機械器具製造業(通信機器、コンピュータなど) / 電子部品・デバイス製造業(半導体、集積回路など) / 輸送用機械器具製造業(自動車、鉄道車両、航空機など) / 精密機械器具製造業(測定/分析機器、医療用機械器具、光学機械器具など) / その他の組立製造業
加工製造業:	食料品、飲料、たばこ、飼料製造業 / 衣類、繊維工業 / 家具、木材、木製品製造業 / パルプ、紙、紙加工品製造業 / 印刷、印刷関連業 / 化学工業 / 石油、石炭、プラスチック、ゴム、革製品製造業 / 窯業、土石製品製造業 / 鉄鋼業 / 非鉄金属製造業 / その他加工製造
建設業:	職別工事業 / 総合工事業 / 設備工事業 / その他の建設業
卸売業:	繊維、衣服 / 食料、飲料 / 建築材料、鉱物、金属材料 / 機械器具 / その他卸売業
小売業:	百貨店、総合スーパー / 衣服、靴、かばん / 食料、飲料 / 自動車、自転車 / 家具、建具 / 陶磁器、金物 / 家電、機械器具 / 医薬品、化粧品 / 書籍、文房具 / その他小売業
流通業(運輸業):	運輸業(鉄道、道路、水運、航空) / 倉庫業 / 運輸付帯サービス業
IT関連サービス業:	受託開発ソフトウェア業 / パッケージソフトウェア業 / 情報処理サービス業(システム運用など) / 情報提供サービス業(有料サイト運営など) / その他IT関連サービス業
一般サービス業:	電気、ガス、水道、熱供給 / 通信、放送 / 金融、証券、保険 / 不動産 / 飲食店、宿泊業 / 医療、福祉 / 教育 / 協同組合 / その他サービス業
その他:	官公庁、地方自治体 / その他

「A5.所在区分」の定義(各所在区分に含まれる都道府県)は以下の通り。ここでの所在地とは本社所在地を指す。

北海道地方:	北海道
東北地方:	青森県,岩手県,宮城県,秋田県,山形県,福島県
関東地方:	茨城県,栃木県,群馬県,埼玉県,千葉県,東京都,神奈川県
北陸地方:	新潟県,富山県,石川県,福井県
中部地方:	山梨県,長野県,岐阜県,静岡県,愛知県,三重県
近畿地方:	滋賀県,京都府,大阪府,兵庫県,奈良県,和歌山県
中国地方:	鳥取県,島根県,岡山県,広島県,山口県
四国地方:	徳島県,香川県,愛媛県,高知県
九州・沖縄地方:	福岡県,佐賀県,長崎県,熊本県,大分県,宮崎県,鹿児島県,沖縄県

「A6.IT管理/運用の人員規模」の詳細な定義は以下の通り。

<<担当者が決まっているが、いずれも兼任>>	<<外部の人材に委託している>>
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が1名いる	・ITの管理/運用は社内常駐の外部人材に委託している
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が2~5名いる	・ITの管理/運用は非常駐の外部人材に委託している
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が6~9名いる	<<担当者が決まっていない>>
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が10名以上いる	・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず
<<担当者が決まっており、いずれも専任>>	ITの管理/運用は全く行っていない
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が1名いる	・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が2~5名いる	その都度適切な社員が対応している
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が6~9名いる	<<その他>>
・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が10名以上いる	・その他:

「A7.ビジネス拠点の状況」の詳細な定義は以下の通り。

- ・拠点は1ヶ所のみである
- ・2~5ヶ所の拠点が、サーバやネットワークといったインフラは全拠点で統一的に管理されている
- ・2~5ヶ所の拠点が、サーバやネットワークといったインフラは各拠点で個別に管理されている
- ・6ヶ所以上の拠点が、サーバやネットワークといったインフラは全拠点で統一的に管理されている
- ・6ヶ所以上の拠点が、サーバやネットワークといったインフラは各拠点で個別に管理されている
- ・その他:

## 分析サマリの章構成

本調査レポートには多岐に渡る集計データ(Microsoft Excel形式)に加えて、分析および提言の要点をまとめた「分析サマリ」(PDF形式)が収録されている。この分析サマリを通読することで、中堅・中小企業におけるRPAツール、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの活用実態やIT企業が今後取り組むべき事柄を把握することができる。分析サマリの章構成は以下の通り。

### **第1章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合**

中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合を年商別や適用対象となる10分野の業務アプリケーション毎に集計/分析

### **第2章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入予定割合**

中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの今後の導入予定を年商別や適用対象となる10分野の業務アプリケーション毎に集計/分析

### **第3章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の社数シェア**

RPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの4つの区分について、導入済み/導入予定の社数シェアを年商別に集計

### **第4章: ユーザ企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ**

ユーザ企業がRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際に顕著に見られる課題やニーズを集計/分析

### **第5章: IT企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ**

IT企業自身がRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際に顕著に見られる課題やニーズを集計/分析

### **第6章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入費用**

RPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを導入済み/導入予定のユーザ企業がITアプリ開発ツールに対して拠出可能な費用を尋ねた結果を集計/分析

次頁では本調査レポートの設問項目について説明している。

## 本調査レポートの設問項目(1/12)

本調査レポートでは、RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントといったITアプリ開発ツールの導入状況(導入済みおよび導入予定の割合)、ユーザ企業やIT企業がITアプリ開発ツールを活用する際の課題/ニーズを集計/分析している。本調査レポートで集計/分析の対象としているITアプリ開発ツールの定義は以下の通り。

### RPAツール

操作記録などによって、ヒトによる手作業を自動化するアプリケーションを指す

例) 「WinActor」: NTTアドバンステクノロジー、「BizRobo!」: オープン

### ノーコード開発ツール

プログラミングを全く行わずにシステムを作成できるアプリケーションを指す

例) 「kintone」: サイボウズ、「Forguncy」: メシウス

### ローコード開発ツール

簡易なプログラミングによってシステムを作成できるアプリケーションを指す

例) 「GeneXus」: ジェネクス・ジャパン、「OutSystems」: OutSystems

(以下ではノーコード開発ツールとローコード開発ツールを総称する場合は「NLDツール」と略記する)

### AIエージェント

自然な対話指示で業務フローを自動で実行/定義するアプリケーションを指す

さらに、AIエージェントは以下の2通りに分かれる

#### 狭義のAIエージェント

データに応じて業務フローを自ら定義して自動実行するもの(「Agentic AI」と呼ばれることもある)

例) コールセンターにおける問い合わせ対応の自動処理において、  
状況に応じてヒトによる割り込み処理をAIが自動で判断して挿入する

#### 広義のAIエージェント

業務フローの自動実行のみを行い、定義はヒトが行うもの

例) メール添付ファイルの自動でフォルダに格納する処理をヒトが定義し、  
ファイル内容に応じたフォルダ振り分けをAIが自動処理する

上記の定義を踏まえた上で、以下では本調査レポートの設問項目を列挙していく。

### 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(複数回答可)

中堅・中小企業がITアプリ開発ツールを導入する際は、完全に新規の業務システムを構築するケースよりも既存の業務システムを補完する目的で利用されることが多い。そのため、ベンダや販社/SIerとしては「ITアプリ開発ツールの導入が多いのはどのような業務システムか？」を把握することが重要となる。

そこで、本調査レポートでは以下に列挙した計10通りの業務アプリケーション分野におけるITアプリ開発ツールの導入済み/適用済みの状況を探っている。

1. ERP
2. 生産管理
3. 会計管理
4. 販売・仕入・在庫管理
5. 給与・人事・勤怠・就業管理
6. ワークフロー・ビジネスプロセス管理
7. コラボレーション(グループウェア/Web会議/ビジネスチャット/プロジェクト管理/タスク管理)
8. CRM(SFA、メール配信/共有、MA、名刺管理)
9. BI(ビジネスインテリジェンス、帳票)
10. 文書管理・オンラインストレージサービス

次頁に続く

## 本調査レポートの設問項目(2/12)

前頁からの続き

導入済み/適用済みのITアプリ開発ツールを尋ねる設問は前頁に列挙した計10通りの業務アプリケーション分野毎にF1-1～F1-11の枝番設問に分かれている。(さらに、10分野のいずれにも該当しない「その他」が11番目に加わる)

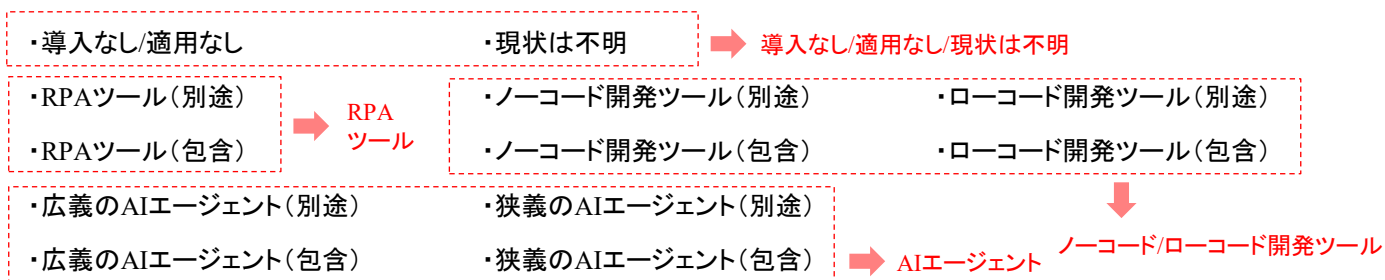
各枝番設問の選択肢はRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、広義のAIエージェント、狭義のAIエージェントの5通りのITアプリ開発ツールを導入済み/適用済みか？を複数回答形式で尋ねている。さらに、それぞれのITアプリ開発ツール毎に以下のように「別途」か、「包含」か？も区別している。

別途：業務アプリケーションに追加または連携する形でITアプリ開発ツールを利用している場合

包含：業務アプリケーション自体がITアプリ開発ツールとしての機能を併せ持っている場合

さらに「導入なし」と「現状は不明」の選択肢も含めて、「F1-1.導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(ERP)(複数回答可)」の選択肢は以下ようになる。

### F1-1. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(ERP)(複数回答可)



以下に列挙した以降の枝番設問についても選択肢は上記と同様である。

### F1-2. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(生産管理)(複数回答可)

### F1-3. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(会計管理)(複数回答可)

### F1-4. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(販売・仕入・在庫管理)(複数回答可)

### F1-5. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(給与・人事・勤怠・就業管理)(複数回答可)

### F1-6. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(ワークフロー・ビジネスプロセス管理)(複数回答可)

### F1-7. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(コラボレーション)(複数回答可)

### F1-8. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(CRM)(複数回答可)

### F1-9. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(BI)(複数回答可)

### F1-10. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(文書管理・オンラインストレージサービス)(複数回答可)

### F1-11. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(その他)(複数回答可)

具体的な回答例は以下ようになる。

例) ERPパッケージを導入しており、別途RPAツールも導入してERPの画面を自動実行している場合

⇒ F1-1で「RPA(別途)」を選択

例) グループウェアを導入しており、グループウェア自体がノーコード開発ツールを有償オプションで包含している場合

⇒ F1-7で「ノーコード開発ツール(包含)」を選択

さらに、以下のようにF1-1～F1-11の少なくともいずれかで各ITアプリ開発ツールを導入済み/適用済みか？を示した集約設問F1(選択肢はF1-\*と同様)と設問F1の選択肢を上記の赤点線と赤字で示した要約選択肢にまとめた設問F1Sも設けられている。

### F1. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可)

### F1S. 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可)

## 本調査レポートの設問項目(3/12)

### 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(複数回答可)

導入済み/適用済みの場合と同様に導入予定/適用予定のITアプリ開発ツールについても、以下に列挙したように計10通り(+「その他」)の業務アプリケーション分野毎に状況を尋ねている。

#### F2-1. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(ERP)(複数回答可)

#### F2-2. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(生産管理)(複数回答可)

#### F2-3. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(会計管理)(複数回答可)

#### F2-4. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(販売・仕入・在庫管理)(複数回答可)

#### F2-5. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(給与・人事・勤怠・就業管理)(複数回答可)

#### F2-6. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(ワークフロー・ビジネスプロセス管理)(複数回答可)

#### F2-7. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(コラボレーション)(複数回答可)

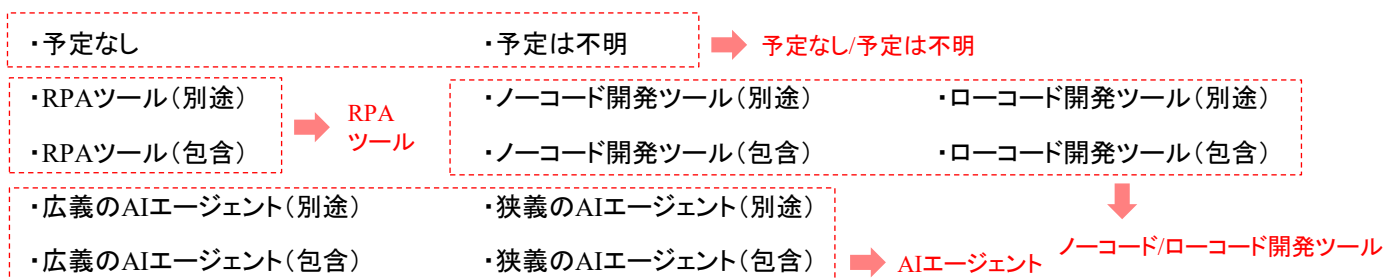
#### F2-8. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(CRM)(複数回答可)

#### F2-9. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(BI)(複数回答可)

#### F2-10. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(文書管理・オンラインストレージサービス)(複数回答可)

#### F2-11. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(その他)(複数回答可)

上記に列挙した設問F2-1～F2-11の選択肢は以下の通りである。



具体的な回答例は以下のようなになる。

例) ERPパッケージを導入しており、別途ローコード開発ツールを導入してERPの機能拡張を行う予定である場合  
⇒ F2-1で「ローコード開発ツール(別途)」を選択

例) BIを導入しており、新たに導入するAIエージェントからBIのデータ分析機能呼び出す処理を構築予定である場合  
⇒ F2-9で「広義のAIエージェント(別途)」を選択

さらに、以下のようにF2-1～F2-11の少なくともいずれかで各ITアプリ開発ツールを導入予定/適用予定か？を示した集約設問F2(選択肢はF2-\*と同様)と設問F2の選択肢を上記の赤点線と赤字で示した要約選択肢にまとめた設問F2Sも設けられている。

### F2. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可)

#### F2S. 導入予定/適用予定のITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可)

### F3. 導入済み/導入予定のRPAツール(複数回答可)

導入済み/導入予定のRPAツール名称を与えられた選択肢から選ぶ設問である。選択肢に記載される製品/サービス名称は前回の調査で自由回答欄に多く記載されたものは新たに選択肢に追加し、逆に複数回の調査で回答割合が極めて低い値であったものは割愛するといった形でユーザ企業の回答状況を元に調整している。また、新規の製品/サービスの場合でも市場における注目度が高い場合には過去の回答割合に関わらず選択肢に追加することもある。集計データにはRPAツールを導入済みと導入予定のそれぞれの場合に分けた結果も収録されている。

選択肢は次頁の通り。

次頁に続く

# 本調査レポートの設問項目(4/12)

前頁からの続き

## 製品/サービス名

### <<国内ベンダ>>

- ・WinActor
- ・BizRobo!
- ・Auto名人シリーズ
- ・SynchRoid
- ・OCEVISTAS
- ・パトロールロボコン/ロボシュタイン
- ・ipaSロボ
- ・NEC Software Robot Solution (BizRobo!は除く)
- ・GENEST/EntreQue/Axelute
- ・RKシリーズ
- ・NaU DSP
- ・Robo-Pat
- ・batton
- ・AUTORO (Robotic Crowd)
- ・BizteX cobit
- ・アシロボ
- ・RoboTANGO
- ・JobAuto
- ・Ez Robot
- ・クラウドBOT
- ・EzAvater
- ・コボットシリーズ
- ・zigga flow
- ・マクロマン
- ・ロボオペレータ
- ・オークファンロボ

### <<外資系ベンダ>>

- ・UiPath
- ・Blue Prism
- ・NICE RPA
- ・Power Automate Desktop
- ・Automation 360 (Anywhere Enterprise)
- ・Pega Robotic Process Automation
- ・WorkFusion (RPA Expressを含む)
- ・Tungsten RPA (Kofax RPA)
- ・Verint RPA
- ・Automate
- ・OpenRPA

### <<その他>>

- ・その他の製品/サービス:
- ・Webサービス連携ツールの一機能として利用
- ・ERP/基幹系システムの一機能として利用
- ・コラボレーションの一機能として利用
- ・ワークフロー・ビジネスプロセス管理の一機能として利用
- ・ペーパーレス化のソリューションの一部として利用
- ・テレワークのソリューションの一部として利用
- ・独自開発システム
- ・業務アプリケーションに含まれている

## 開発元

- NTTアドバンステクノロジー
- オープン(RPAテクノロジーズ)
- ユーザックシステム
- ソフトバンク、オープングループ
- 大崎コンピュータエンジニアリング、オープンコムスクエア
- デリバリーコンサルティング
- NEC
- 富士通
- キーエンス
- なうデータ研究所
- FCE
- 受発注バスターズ (batton)
- オートロ(チュートリアル)
- BizteX
- ドヴァ(ディヴオートソリューション)
- スターティアレイズ
- シジャム・ビーティービー
- Ezテクノロジーズ(RPAソリューションズ)
- C-RISE
- テリロジーサービスウェア
- ディップ
- ジグザ
- コクー
- PKSHA Associates
- オークファン

- UiPath
- SS&C Blue Prism
- ナイスジャパン
- 日本マイクロソフト
- オートメーション・エニウェア
- Pegasystems
- WorkFusion
- オープン(Tungsten Automation Japan、Kofax Japan)
- ペリントシステムズジャパン
- Fortra (HelpSystems)
- OpenIAP

- 例) Workatoの「Workato」など
- 例) OSK(大塚商会)の「SMILE V」など
- 例) ネオジャパンの「App Suite」など
- 例) Nintexの「Nintex Workflow Cloud」など

## F4. 導入済み/導入予定のノーコード/ローコード開発ツール(複数回答可)

導入済み/導入予定のノーコード/ローコード開発ツール名称を与えられた選択肢から選ぶ設問である。ユーザ企業から見た場合はノーコードとローコードの境界線は曖昧になりやすい。ユーザ企業がどのような製品/サービスをノーコード/ローコードと捉えているか?も製品/サービスを訴求する上では重要な情報となる。そのため、具体的な製品/サービス名を尋ねる設問は両方で共通としている。

選択肢に記載される製品/サービス名称は前回の調査で自由回答欄に多く記載されたものは新たに選択肢に追加し、逆に複数回の調査で回答割合が極めて低い値であったものは割愛するという形でユーザ企業の回答状況を元に調整している。新規の製品/サービスの場合でも、市場における注目度が高い場合には過去の回答割合に関わらず選択肢に追加される。

また、ノーコード/ローコード開発ツールは異なる出自やルーツを持つ多種多様な製品/サービスが混在しているため、以下に列挙しているように、出自やルーツに応じてグループ分けして選択肢を整理している。

集計データにはノーコード/ローコード開発ツールを導入済みと導入予定のそれぞれの場合に分けた結果も収録されている。選択肢は以下の通り。

### 製品/サービス名

### 開発元

#### <<超高速開発ツール>>

データ構図や画面レイアウトなどをツール上で設計/指定することで、プログラムを自動生成するもの

•GeneXus	ジェネクス・ジャパン
•OutSystems	OutSystems
•Magic xpa(dbMagic)	マジックソフトウェア・ジャパン
•Web Performer	キャノンITソリューションズ
•AppSQUARE	日立ソリューションズ東日本
•楽々Framework3	住友電気情報システム
•Sapiens eMerge	サピエンステクノロジー・ジャパン
•intra-mart Accel Platform(Accel-Mart Quick/Plusを含む)	NTTデータ イントラマート
•HCL Domino Leap(HCL Domino Volt)	HCL Software
•AWS Amplify	アマゾンウェブサービスジャパン
•Adalo	Adalo
•Bubble	Bubble
•Click	NoCode Japan
•Wagby	ジャスミンソフト
•ブリザンター	インプリム

#### <<PaaSとして提供されているもの>>(PaaSを出自としているもの)

クラウド上に開発環境と実行環境が配備されており、月額/年額のサービスとして提供されているもの

•Lightning Platform(Force.com)	セールスフォース・ジャパン
•kintone	サイボウズ
•Power Apps	日本マイクロソフト
•AppSheet	グーグル

#### <<カジュアルデータベース>>(超高速開発ツールと比べて、やや簡易なもの)

ExcelやAccessのようにデータ構造を定義し、部品を組み合わせで操作/表示の画面を作成するもの

•Clarif FileMaker	Clarif(クラリス)
•JUST.DB / UnitBase	ジャストシステム
•Zoho Creator	ゾーホージャパン
•コンテキサー	アプストウェブ
•Forguncy	メシウス(グレープシティ)
•CELF	SCSK
•RapidTable	Rapid Table

次頁に続く

## 本調査レポートの設問項目(6/12)

前頁からの続き

### 製品/サービス名

### 開発元

<<グループウェアと関連が深いもの>>(グループウェアから派生した出自を持つもの)

グループウェアベンダによって提供され、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

・AppSuite	ネオジャパン
・SmartDB	ドリーム・アーツ
・POWER EGG Webデータベース	ディサークル

<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>(CRMや基幹系システムから派生した出自をもつもの)

CRMの一環として導入されることが多く、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

・SMILE V Custom AP Builder	OSK(大塚商会)
・SMILE V CRM Quick Creator	OSK(大塚商会)
・SPIRAL	スパイラル(パイブドビッツ)

<<<iPaaS/データ連携ツール>>

複数のシステムやクラウドサービス間を連携することに重点を置いたもの

・DataSpider Cloud	セゾンテクノロジー(セゾン情報システムズ)
・ASTERIA Warp	アステリア
・Anypoint Platform	MuleSoft(セールスフォース・ジャパン)
・Workato	Workato
・Intelligent Data Management Cloud	インフォマティカ
・Boomi	Boomi
・Power Automate	日本マイクロソフト
・IFTTT	IFTTT
・Zapier	Zapier
・Anyflow	Anyflow
・Claris Connect	Claris(クラリス)

<<その他>>

- ・ECサイト構築に特化したツール
- ・ホームページ作成に特化したツール
- ・モバイル向けシステムに特化したツール
- ・その他の製品/サービス:
- ・独自開発システム
- ・業務アプリケーションに包含されている

## F5. 導入済み/導入予定のAIエージェント(複数回答可)

導入済み/導入予定のAIエージェント名称を与えられた選択肢から選ぶ設問である。AIエージェント市場はまだ黎明期であり、RPAツールやノーコード/ローコード開発ツールと比べて導入割合も低い。だが、現段階でどのような製品/サービスが導入済み/導入予定となっているか？を確認することも重要だ。

AIエージェントには大手のクラウド事業者やベンダが提供する汎用的なもの、既存の業務アプリケーションに組み込まれているもの、特定の用途に特化したもの、ソリューションとしての位置付けが強いものなど、幾つかのグループに分類できる。設問F5では上記のようなグループ分けに従って選択肢を列挙している。

集計データにはAIエージェントを導入済みと導入予定のそれぞれの場合に分けた結果も収録されている。

選択肢は次頁の通り。

次頁に続く

# 本調査レポートの設問項目(7/12)

前頁からの続き

## 製品/サービス名

## 開発元

### <<製品/サービスとして提供されているもの(汎用型)>>

比較的幅広い業務に適用可能であるもの

- Microsoft Copilot Studio
- Google Agentspace
- Dify
- UiPath Platform for Agentic Automation
- Box AI Agents
- JAPAN AI AGENT
- AI Agents with Dataiku
- dejiren
- ZEALS AI Agent
- クウゼンAIエージェント
- Felo Agent
- Cogniflow
- AutoGPT
- crewAI
- Browser Use
- AgentGPT

- 日本マイクロソフト
- グーグル(Google Cloud)
- LangGenius
- UiPath
- Box
- JAPAN AI
- Dataiku
- ウイングアーク1st
- ZEALS
- クウゼン
- Felo
- Cogniflow
- オープンソースプロジェクト
- オープンソースプロジェクト
- オープンソースプロジェクト
- オープンソースプロジェクト

### <<製品/サービスとして提供されているもの(組込型)>>

既存の業務システムやツールの一部となっているもの

- Agentforce
- ServiceNow AI Agents
- Workday Illuminate
- Zendesk AI
- DX Suite

- セールスフォース・ジャパン
- ServiceNow Japan
- Workday
- Zendesk Japan
- AI inside

### <<製品/サービスとして提供されているもの(特化型)>>

特定の業種や業務に比較的特化しているもの

- Genspark Autopilot Agent
- 経理AIエージェント
- ロジスティクス・エージェント
- VOC.AI AIエージェント
- リクルタAI
- ラクリブ
- BabyAGI

- Genspark
- TOKIUM
- セイノー情報サービス
- VOC.AI
- Algomatic
- ラクダ
- オープンソース(個人開発)

### <<ソリューションとしての位置付けが強いもの>>

- NECのソリューション
- 富士通のソリューション
- 日立製作所のソリューション
- NTTデータのソリューション
- NTTドコモビジネス(NTTコミュニケーションズ)のソリューション
- エクサウィザーズのソリューション
- AI Shiftのソリューション
- その他のソリューション

- 例) NEC AI Agent
- 例) Fujitsu Kozuchi AI Agent
- 例) AIエージェント開発・運用・環境提供サービス
- 例) Smart Agent
- 例) 20種のAIエージェントによる業界別ソリューション
- 例) AIエージェントパッケージ
- 例) AIエージェント構築支援サービス

次頁に続く

前頁からの続き

## <<その他>>

- ・独自開発システム
- ・その他の製品/サービス:

さらに設問F3、F4、F5には<<その他>>を除いた選択肢の中で回答割合が高い上位の製品/サービスを降順に並べて、末尾に<<その他>>のグループに属する選択肢の回答割合を列挙した以下の要約設問も設けられている。

### F3S. 導入済み/導入予定のRPAツール(複数回答可)

### F4S. 導入済み/導入予定のノーコード/ローコード開発ツール(複数回答可)

### F5S. 導入済み/導入予定のAIエージェント(複数回答可)

## F6. ITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)

ITアプリ開発ツールを導入済みの場合は実際に直面している課題、導入予定の場合は予想される課題を回答する設問である。また、ITアプリ開発ツールを導入していないまたは導入する予定がない場合についても「もし導入したと仮定した時に想定される課題は何か?」という観点で尋ねることで、今後想定される課題も明らかにしている。

さらに、設問F1Sと設問F2Sの回答結果を軸として集計することで、RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントをそれぞれ導入済みおよび導入予定である場合にどのような課題が多く挙げられているか?についても集計している。選択肢は以下の通り。

### <<自社の業務や体制に関連する課題>>

- ・ヒトが判断/実行した方が安全かつ効率的な業務もある
- ・ツール活用に必要なITスキルを持つ社内人材がいない
- ・導入しても現場における活用が浸透/普及していない
- ・業務フローが属人化しており、実態を把握できていない
- ・業務や部門でデータ書式が異なり、統一されていない
- ・ツールを活用すべき業務場面を選択/判断できない

### <<ツールを用いたシステム開発に関する課題>>

- ・ツールを活用したシステム内製の実現方法が分からない
- ・ツール活用で得られた効果を測定/実証する方法がない
- ・ツールを活用すると、スクラッチ開発と比べて処理が遅い

### <<ツールの管理/運用に関する課題>>

- ・業務仕様が変わる度に設定/変更の作業が必要になる
- ・システムが変わる度に設定/変更の作業が必要になる
- ・知らない間にデータや個人情報が流出する恐れがある
- ・意図しない処理が勝手に実行されてしまう恐れがある
- ・トラブル/エラー発生時の原因特定や修正が難しい

### <<ツールの価格に関する課題>>

- ・ツールの価格が高額であり、費用対効果が見込めない
- ・無償の簡易ツールは便利だが、利用には不安がある

### <<AIエージェントに関連の深い課題>>

- ・自社の業態/業務に応じてAIを最適化する必要がある
- ・AIに学習させるデータが足りず、処理が不正確になる
- ・AIの導き出した結果の根拠を説明することができない

### <<NLDツールに関連の深い課題>>

- ・ツールを用いた開発では画面や機能の制限事項が多い
- ・仕様や経緯が不明な自作アプリが社内に散在してしまう

### <<RPAツールに関連の深い課題>>

- ・業務システム自体を改善した方がRPAよりも安価で確実
- ・ヒトの操作を記録して反復実行する自動化はエラーが多い

### <<その他>>

- ・その他:
- ・課題は全くない(排他)

### F7. ITアプリ開発ツールを活用する際のニーズ(複数回答可)

ITアプリ開発ツールを導入済みまたは導入予定の場合は同ツールの活用に際して必須と考えるニーズを回答し、ITアプリ開発ツールを導入していないまたは導入する予定がない場合は「導入したと仮定した時に必須になると想定されるニーズ」を回答する設問である。

さらに、設問F1Sと設問F2Sの回答結果を軸として集計することで、RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントをそれぞれ導入済みおよび導入予定である場合にどのようなニーズが多く挙げられているか？についても集計している。選択肢は以下の通り。

#### <<自社の業務や体制に関連するニーズ>>

- ・業務フローの中でヒトが判断/実行する箇所を設けてくれる
- ・ツール活用に必要なITスキルを習得する支援をしてくれる
- ・活用を社内で推進するグループの立ち上げや運営の支援
- ・業務フローを現場の従業員にヒアリングして整理してくれる
- ・業務や部門で異なるデータ書式を統一する支援をしてくれる
- ・ツールを活用すべき業務場面を指南/助言してくれる

#### <<ツールを用いたシステム開発に関するニーズ>>

- ・ツールを活用したシステム内製を進める支援をしてくれる
- ・ツール活用の効果を測定/実証する作業を行ってくれる
- ・ツールを活用しても処理が遅くならない工夫をしてくれる

#### <<ツールの管理/運用に関するニーズ>>

- ・業務仕様の変更に対応する設定/改変の作業を担ってくれる
- ・システムの変更に対応する設定/改変の作業を担ってくれる
- ・データや個人情報の漏えいがないかを常に監視してくれる
- ・処理内容を常に監視し、不正処理を未然に防止してくれる
- ・トラブル/エラーの監視や発生時の復旧対応をしてくれる

#### <<ツールの価格に関するニーズ>>

- ・従量課金などによってツールの導入費用を軽減してくれる
- ・無償の簡易ツールを安全に利用する支援を行ってくれる

#### <<AIエージェントに関連の深いニーズ>>

- ・自社の業態/業務に応じてAIを最適化する作業を行ってくれる
- ・AIに学習させるデータを生成/収集する作業を行ってくれる
- ・AIが出した結果を解釈し、根拠を説明する支援をしてくれる

#### <<NLDツールに関連の深いニーズ>>

- ・ツールで対応できない画面や機能を独自開発で補ってくれる
- ・社内の自作アプリを調べて必要に応じて統合/整理してくれる

#### <<RPAツールに関連の深いニーズ>>

- ・業務システム自体がRPAによる自動化機能を包含している
- ・ヒトによる操作記録を確認/編集して、エラーを除いてくれる

#### <<その他>>

- ・その他:
- ・ニーズは特にない(排他)

### F8. ITアプリ開発ツールに拠出可能な導入費用(万円)

ここでの「導入費用」とはITアプリ開発ツールの導入に要する以下の費用の合計額を指す。

パッケージの場合： パッケージ購入費用、ミドルウェア購入費用、パッケージの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

SaaSの場合： サービス初期費用、サービスの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

独自開発の場合： 独自開発費用、ミドルウェア購入費用、独自開発システムの初期設定費用の総額

ハードウェアとOSに関する初期費用(購入費用、初期設定費用など)は除外して、導入済みの場合は実際に要した費用、導入予定の場合は予定している費用を数値(万円)で回答する。また、複数のITアプリ開発ツールを導入済み/導入予定の場合にはそれらの合計額を回答する。これによって、中堅・中小企業がITアプリ開発ツールに対してどれくらいの費用を拠出したか?、今後拠出する予定なのか?を知ることができる。

本調査レポートではユーザ企業だけでなく、IT企業を対象とした設問も設けている。以下の2つの設問は設問A4「業種区分」で「IT関連サービス業」と回答した企業(つまり、IT企業に該当する)に対し、システム開発/運用においてITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズを尋ねたものだ。

### F9. IT企業としてITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)

IT企業の立場として、システム開発/導入でITアプリ開発ツールを活用する際の課題は何か?を尋ねた設問である。選択肢は以下の通り。

#### <<ユーザ企業の体制や業務に起因する課題>>

- ・ツールを導入しても、ユーザ側での利用が活性化しない
- ・ユーザ企業の業務フローを把握/整理することが難しい
- ・ユーザ企業のシステム内製を支援する方法が分からない

#### <<ツールが自社ビジネスに与える影響>>

- ・ツールを基盤とした開発は自社の自由度を損なうリスクがある
- ・顧客のシステムの機能仕様をツールベンダに掌握される
- ・顧客のシステムのデータをツールベンダに掌握される

#### <<ツールの導入や活用に関する課題>>

- ・ツール活用の効果を測定/実証して示す方法が分からない
- ・ツールを活用すると、顧客から低価格/短納期を求められる
- ・ツール適用場面とヒトの手作業を残す場面の判別が難しい
- ・ツールを一本化すべきか、複数を併用すべきか判断できない
- ・AI学習など、ツール活用には多くのITリソースを必要とする

#### <<ツールの管理/運用に関する課題>>

- ・ツールによる処理を監視するには別途ツールが必要になる
- ・ツール活用に伴うセキュリティ面の対策が別途必要になる
- ・トラブル/エラーの予防策や発生時の対処法が分からない

次頁に続く

前頁からの続き

### <<ツールの仕様や価格に関連する課題>>

- ・ツールの初期費用や運用費用が導入障壁となりやすい
- ・ツールの仕様や価格が突然変わってしまう可能性がある

### <<AIエージェントに関連の深い課題>>

- ・業種や業態に応じて最適なAIモデルを選ぶことが難しい
- ・ユーザ企業のデータだけではAIが十分に学習できない
- ・AIの導出結果をユーザ企業に分かり易く説明できない

### <<NLDツールに関連の深い課題>>

- ・NLDツールは制限が多く、結局コーディングが必要になる
- ・ノーコードとローコードを混同しているユーザ企業が多い

### <<RPAツールに関連の深い課題>>

- ・RPAの適用場面を選択/判断できないユーザ企業が多い
- ・RPAの導入コンサルを不要と考えるユーザ企業が多い

### <<その他>>

- ・その他:
- ・課題は全くない(排他)

## F10. IT企業としてITアプリ開発ツールを活用する際のニーズ(複数回答可)

IT企業の立場として、システム開発/導入においてITアプリ開発ツールを活用する際、ITアプリ開発ツール自体もしくは同ツールを開発/提供するベンダに対してどのようなニーズがあるか?を尋ねた設問である。選択肢は以下の通り。

### <<ユーザ企業の体制や業務に起因するニーズ>>

- ・セミナーなどで、ツール利用の活性化を支援してくれる
- ・ログなどで業務フローを把握するツールを提供してくれる
- ・システム内製の支援を収益化するノウハウを示してくれる

### <<ツールと自社ビジネスとの関連性>>

- ・ツールがOSSであるなど、ツールベンダへの依存度が低い
- ・ツールで作成した業務仕様の権利保護が明確になっている
- ・ツール内に格納するデータの権利保護が明確になっている

### <<ツールの導入や活用に関するニーズ>>

- ・ツールの活用効果を測定/実証するノウハウを示してくれる
- ・ツール活用と開発工数の関連をユーザに啓蒙してくれる
- ・ツール活用に適した業務場面を示した資料を提供してくれる
- ・競合となる他社製ツールと比較した資料を提供してくれる
- ・一時的に必要となるITリソースをクラウドで提供してくれる

### <<ツールの管理/運用に関するニーズ>>

- ・ツールの処理を監視する仕組みもツール自体が備えている
- ・ツール活用時のセキュリティ対策もツール自体が備えている
- ・トラブル/エラー発生時はチャットやメールで支援してくれる

次頁に続く

前頁からの続き

### <<ツールの仕様や価格に関連するニーズ>>

- ・従量課金などの多種多様な課金体系を提示してくれる
- ・ツールベンダ側が中長期に渡るロードマップを明示している

### <<AIエージェントに関連の深いニーズ>>

- ・業種や業態に応じたAIモデルの選定ガイドを示してくれる
- ・AI学習の基盤や補完となる様々なデータを提供してくれる
- ・AIの導出結果を解釈/説明するノウハウを提供してくれる

### <<NLDツールに関連の深いニーズ>>

- ・NLDツールに適した案件の判定ガイドラインを示してくれる
- ・ノーコードとローコードの違いを解説した資料を示してくれる

### <<RPAツールに関連の深いニーズ>>

- ・目的別や場面別のRPA導入テンプレートを提供してくれる
- ・ツール価格と共に導入コンサル費の目安も提示してくれる

### <<その他>>

- ・その他:
- ・ニーズは特にない(排他)

# 本調査レポートの集計データ(1/4)

ここでは本調査レポートに収録されている集計データの読み取り方などについて解説している。

## 【用語の説明】

本調査レポートの集計データはMicrosoft Excel形式の数表やグラフとして収録されている。集計データが示す内容を的確に読み取るためには、「どんなデータをどのような軸で集計した結果なのか」を常に意識する必要がある。そのために理解しておくべき用語を以下に記載する。

### 「表頭」

実際の集計対象となる設問を指す。集計表では列表記に相当し、グラフでは凡例に相当する。例えば、「ITアプリ開発ツールを活用する際の課題を年商別に集計したデータ」といった場合は「ITアプリ開発ツールを活用する際の課題」が表頭に該当する。

### 「表側」

表頭となるデータを区切って集計する際の軸となる設問を指す。集計表においては行表記に相当し、グラフにおいてはそれぞれの帯に相当する。例えば、「ITアプリ開発ツールを活用する際の課題を年商別に集計したデータ」では「年商」が表側となる。

## 【集計データの種類】

本調査レポートの集計データは設問の形式や表側の有無などによって、以下に列挙した3通りに大別することができる。

### ・単純集計データ

表側を設けずに設問の回答結果をそのまま集計したデータである。与えられた選択肢から選んで回答する設問(選択肢設問)の場合には各選択肢の回答数と回答割合、数値を入力して回答する設問(数値回答設問)では全体の平均値が掲載される。

### ・表側を伴う選択肢設問の集計データ

表側を軸として設定して、選択肢設問を集計したデータである。後述するようにこの集計データは更に「主要分析軸集計データ」と「質問間クロス集計データ」に分けられる。

### ・表側を伴う数値回答設問の集計データ

表側を軸として設定して、数値回答設問を集計したデータである。表側の選択肢毎に表頭の平均値を集計した数表が収録されている。

以下では上記に述べた3種類の集計データについて、具体例と共に詳細を解説していく。

## 【単純集計データ】

ファイル命名規則:【表頭名】単純集計.xlsx

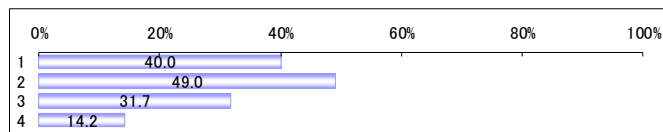
「表頭名」には集計対象となる設問名または設問グループ名が入る。

例)【F1系列】単純集計.xlsx 導入済み/適用済みのITアプリ開発ツールに関する集計結果を収録したファイル

以下は【F1系列】単純集計.xlsxの設問「F1S」の単純集計データの具体例。

F1S.導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可)

	n	%
全体	1300	100.0
1 導入なし/適用なし/現状は不明	520	40.0
2 RPAツール	637	49.0
3 ノーコード/ローコード開発ツール	412	31.7
4 AIエージェント	184	14.2



左側の数表では各選択肢の回答数(n)と回答割合(%)の数表、右側には各選択肢の回答割合を示した棒グラフが配置される。

## 本調査レポートの集計データ(2/4)

### 【表側を伴う選択肢設問の集計データ】

ファイル命名規則:【表頭名】(【表側名】表側).xlsx

「表頭名」には集計対象となる設問名または設問グループ名、「表側名」には表側となる設問名が入る。

例)【F6～F7&F9～F10】(【A4】表側).xlsx ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズ(設問F6～F7および設問F9～F10)を業種(設問A4)別に集計した結果を収録したファイル

表側を伴う選択肢設問の集計データは更に以下の2通りに分けられる。

#### ・主要分析軸集計データ

基本的なユーザ企業属性(A1～A7)を表側とする集計データ

例)【F3～F5】(【A1】表側).xlsx RPAツール、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの具体的な製品/サービスの導入済み/導入予定の社数シェアを年商「A1」を軸として集計した結果を収録したファイル

設問F3～F5については、導入済みと導入予定の社数シェアを分けて把握したい場合のために以下のように「表肩」(表側に加えて設定される2つ目の集計軸)を設けた集計ファイルも主要分析軸集計データとして収録されている。

【F3～F5】(【A\*】表側)(【F1S】表肩).xlsx 設問F3はRPAツールを導入済み、設問F4はノーコード/ローコード開発ツールを導入済み、設問F5はAIエージェントを導入済みの場合に限定して、企業属性(設問A\*)別に集計した結果を収録したファイル(設問F1Sが導入済みのITアプリ開発ツールの種別を表す)

【F3～F5】(【A\*】表側)(【F2S】表肩).xlsx 設問F3はRPAツールを導入予定、設問F4はノーコード/ローコード開発ツールを導入予定、設問F5はAIエージェントを導入予定の場合に限定して、企業属性(設問A\*)別に集計した結果を収録したファイル(設問F2Sが導入予定のITアプリ開発ツールの種別を表す)

#### ・質問間クロス集計データ

ユーザ企業属性以外の設問を表側とする集計データ

例)【F6～F7&F9～F10】(【F1S】表側).xlsx ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズ(設問F6～F7および設問F9～F10)を導入済みのITアプリ開発ツールの種別(設問F1S)別に集計した結果を収録したファイル

表側を伴う選択肢設問の集計データは1設問につき1シート形式となっており、表頭となっている設問名が各シートのタブ名に記載されている。ただし、選択肢の数が多い場合は複数シートにデータが分割される。その際はタブ名に[設問名-1]、[設問名-2]といった枝番が付加され、シート内のグラフタイトルには「\*\*\*\*(1/2)」、「\*\*\*\*(2/2)」のように分割されたシートの一部であることを示す接尾辞が付加される。

表側を伴う選択肢設問の集計データの各シートは以下の4つの要素から構成される。

#### [自動生成コメント](次頁の図A)

集計データの概要が端的なコメントとして記載されている。ただし、このコメントは自動生成された参考コメントとしての位置付けであるため、設問選択肢の詳しい意味合いなどは加味されていない点に注意する必要がある。

#### [設問結果の単純集計結果グラフ](次頁の図B)

選択肢の数に応じて縦棒グラフまたは横帯グラフのいずれかによって表側が設定されていない状態の集計結果を端的に示している。

# 本調査レポートの集計データ(3/4)

前頁からの続き

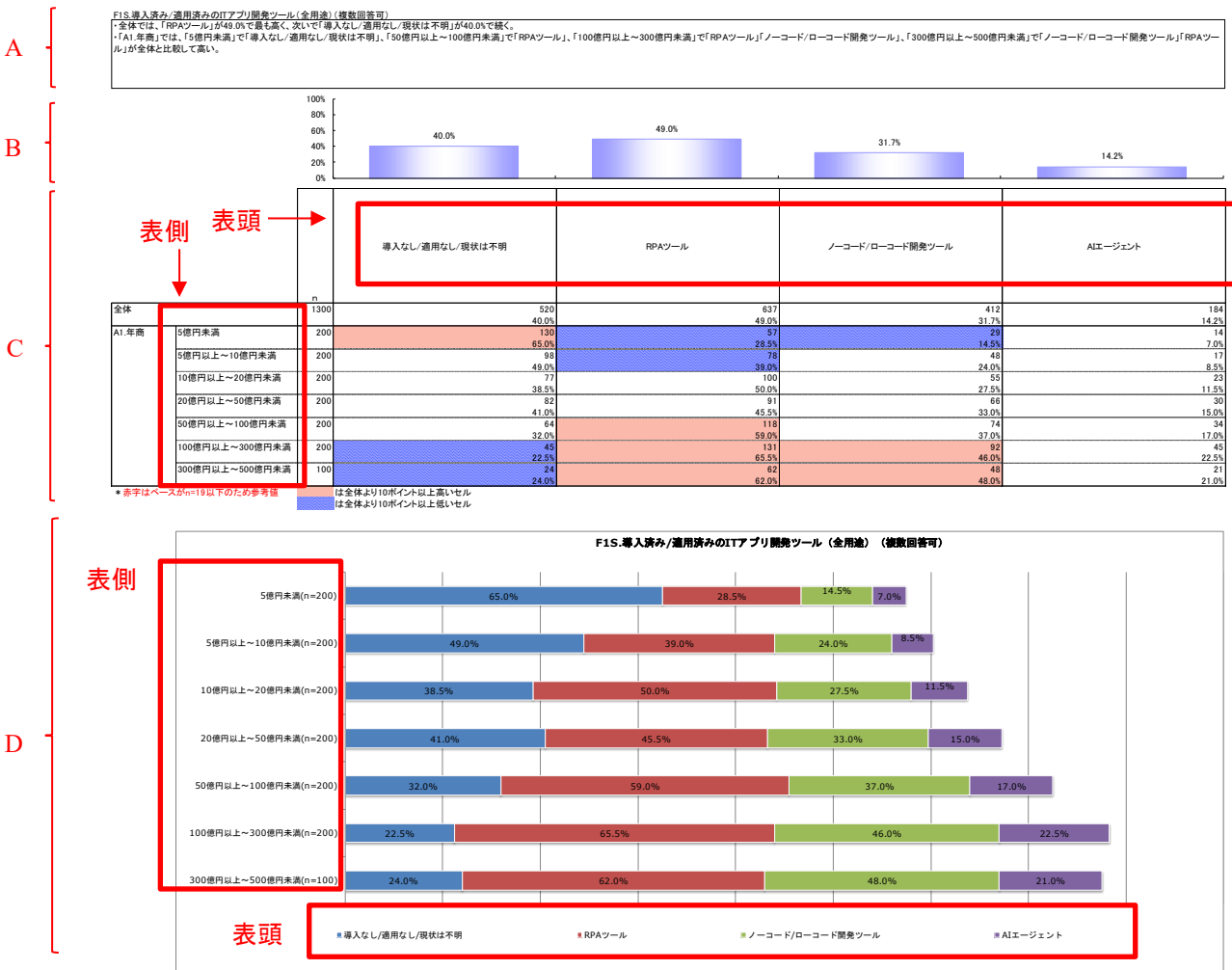
## 【表側を伴う集計結果の数表】(以下の図C)

表側を設定した状態での集計結果を数表として表示している。数表内には選択肢毎の回答件数(n)と回答割合(%)が記載されている。

## 【表側を伴う設問結果のグラフ】(以下の図D)

表側を設定した状態での集計結果を積み上げ横棒グラフとして表示している。可視性を考慮して、5%未満の数値についてはグラフ中の数字表記を非表示としている。表頭となる設問が単一回答設問である場合は目盛に値の付いた横軸が表示される。複数回答設問の場合には複数の選択肢を合計した数値には重複が含まれるため、誤った数値の読み取りを避ける目的で横軸の目盛の値を非表示としている。

図: 表側を伴う選択肢設問の集計データの具体例



## 【表側を伴う数値回答設問の集計データ】

本調査レポートの数値回答設問は設問F8「ITアプリ開発ツールに抛出可能な導入費用(万円)」の1つのみである。

右図が示すように、設問F8の集計データには設問F8の結果を表側毎に平均した数表が収録されている。

F8.ITアプリ開発ツールに抛出可能な導入費用(万円)

	n	平均値
全体	807	287.22
A1:年商		
5億円未満	71	47.94
5億円以上～10億円未満	105	151.28
10億円以上～20億円未満	128	157.12
20億円以上～50億円未満	126	261.41
50億円以上～100億円未満	140	344.56
100億円以上～300億円未満	157	406.11
300億円以上～500億円未満	80	593.19

次頁へ続く

# 本調査レポートの集計データ(4/4)

## 【集計データファイルの一覧】

以下では、本調査レポートに収録されている集計データファイルの一覧を列挙する。

### 単純集計データ

【F1系列】単純集計.xlsx

導入済みのITアプリ開発ツール種別

【F2系列】単純集計.xlsx

導入予定のITアプリ開発ツール種別

【F3～F5】単純集計.xlsx

導入済みおよび導入予定のITアプリ開発ツールの製品/サービス名称

【F6～F10系列】単純集計.xlsx

ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズ(ユーザ視点とIT企業視点)と抛出可能な費用

### 表側を伴う選択肢設問の集計データ

#### 主要分析軸集計データ:

【F1系列】(【A1】表側).xlsx

【F2系列】(【A1】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A1】表側).xlsx

【F1系列】(【A2】表側).xlsx

【F2系列】(【A2】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A2】表側).xlsx

【F1系列】(【A3】表側).xlsx

【F2系列】(【A3】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A3】表側).xlsx

【F1系列】(【A4】表側).xlsx

【F2系列】(【A4】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A4】表側).xlsx

【F1系列】(【A5】表側).xlsx

【F2系列】(【A5】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A5】表側).xlsx

【F1系列】(【A6】表側).xlsx

【F2系列】(【A6】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A6】表側).xlsx

【F1系列】(【A7】表側).xlsx

【F2系列】(【A7】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【A7】表側).xlsx

導入済みのITアプリ開発ツール種別を  
企業属性別に集計した結果

導入予定のITアプリ開発ツール種別を  
企業属性別に集計した結果

ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズを企業属性  
別に集計した結果(ユーザ視点およびIT企業視点)

【F3～F5系列】(【A1】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A5】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A1】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A5】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A1】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A5】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A2】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A6】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A2】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A6】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A2】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A6】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A3】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A7】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A3】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A7】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A3】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A7】表側) (【F2S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A4】表側).xlsx

【F3～F5系列】(【A4】表側) (【F1S】表肩).xlsx

【F3～F5系列】(【A4】表側) (【F2S】表肩).xlsx

導入済みおよび導入予定のITアプリ開発ツールの  
製品/サービス名称を企業属性別に集計した結果

#### 質問間クロス集計データ:

【F6～F7&F9～F10】(【F1S】表側).xlsx

【F6～F7&F9～F10】(【F2S】表側).xlsx

ITアプリ開発ツールを活用する  
際の課題やニーズを導入済み/  
導入予定のツール種別毎に集計  
した結果

### 表側を伴う数値回答設問の集計データ

#### 主要分析軸集計データ:

【F8】(【A1】表側).xlsx

【F8】(【A2】表側).xlsx

【F8】(【A3】表側).xlsx

【F8】(【A4】表側).xlsx

【F8】(【A5】表側).xlsx

【F8】(【A6】表側).xlsx

【F8】(【A7】表側).xlsx

ITアプリ開発ツールに  
抛出可能な費用を企業  
属性別に集計した結果

#### 質問間クロス集計データ:

【F8】(【F1S】表側).xlsx

ITアプリ開発ツールに抛出可能な費用を導入済み/  
導入予定のツール種別毎に集計した結果

【F8】(【F2S】表側).xlsx

## 分析サマリ掲載データ(1/3)

PDF形式の「分析サマリ」では、中堅・中小企業におけるRPAツール、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの活用実態やIT企業が今後取り組むべき事柄として、特に重要度の高いものを解説/提言している。その際には集計データの内容を引用するだけでなく、更に詳細な集計も行っている。そうした分析サマリに掲載されている集計データを収録したファイルが「分析サマリ掲載データ.xlsx」である。以下では分析サマリの章毎に「分析サマリ掲載データ.xlsx」に収録されているデータの具体例を列挙する。

「本調査レポートの集計データ」で解説した集計データでは、ノーコード開発ツールとローコード開発ツールは「ノーコード/ローコード開発ツール」としてまとめられているが、分析サマリ掲載データでは両者を区別している。

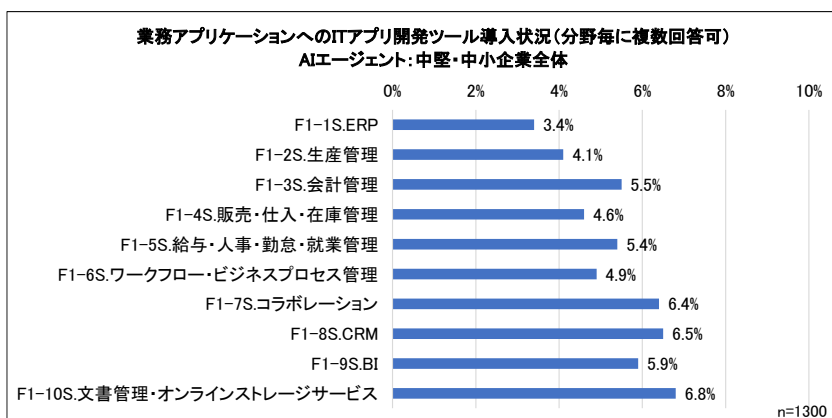
また、分析サマリ掲載データには中堅・中小企業全体を対象とした集計結果に加えて、以下の年商規模別の集計データも収録されている。

- ・小規模企業層(年商5億円未満)
- ・中小企業層(年商5億円以上～50億円未満)
- ・中堅企業層(年商50億円以上～500億円未満)

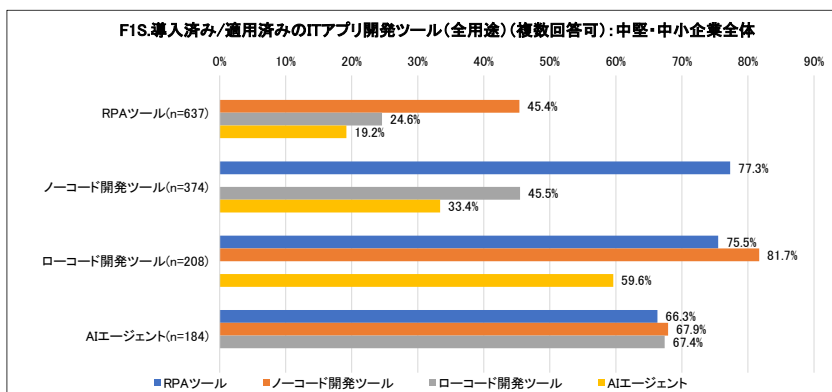
### 第1章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合:

計10通りの業務アプリケーション分野毎(ERP、生産管理、会計管理、販売・仕入・在庫管理、給与・人事・勤怠・就業管理、ワークフロー・ビジネスプロセス管理、コラボレーション、CRM、BI、文書管理・オンラインストレージサービス)にRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/適用済み割合を年商規模別に集計している。

例えば、右記のグラフは中小企業全体におけるAIエージェントの導入済み割合を業務アプリケーション分野毎に集計した結果である。(同様の集計をRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツールといった他のITアプリ開発ツールおよび年商規模別に行った結果も収録されている)



さらに、右記のように「RPAツールを導入済みである企業の何割が他のITアプリ開発ツールを導入しているか？」も集計している。(右記は中堅・中小企業全体における集計結果だが、同様の集計を年商規模別にも行っている)



次頁へ続く

## 第2章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入予定割合

計10通りの業務アプリケーション分野毎(ERP、生産管理、会計管理、販売・仕入・在庫管理、給与・人事・勤怠・就業管理、ワークフロー・ビジネスプロセス管理、コラボレーション、CRM、BI、文書管理・オンラインストレージサービス)にRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの導入予定/適用予定割合を年商規模別に集計している。

第1章の分析サマリ掲載データではRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを導入済み/適用済みである割合を中堅・中小企業全体および年商規模別に集計していたが、第2章では導入予定/適用予定の割合を集計している。つまり、第1章では現状、第2章では今後の予定を分析している。

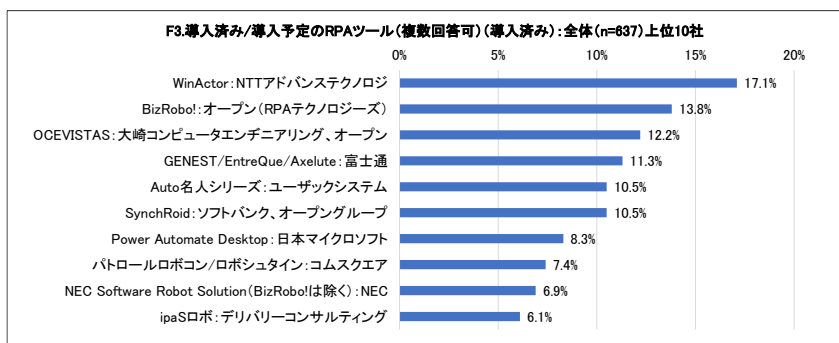
第2章における分析サマリ掲載データの具体例は「導入済み/適用済み」の部分が「導入予定/適用予定」となっている点を除けば第1章と同様である。

## 第3章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の社数シェア

RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの具体的な製品/サービス名称を列挙し、それらの導入済み割合(導入済み社数シェア)および導入予定割合(導入予定社数シェア)を中堅・中小企業全体および年商規模別に集計している。

例えば、右記のグラフは中堅・中小企業全体におけるRPAツール導入済み社数シェア上位10位以内の製品/サービスを集計したものだ。

同じようにノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントについても上位に位置する製品/サービスは何か？を中堅・中小企業全体および年商規模別に集計した結果が収録されている。(集計の対象となっている全ての製品/サービスの一覧は「本調査レポートの設問項目」を参照)

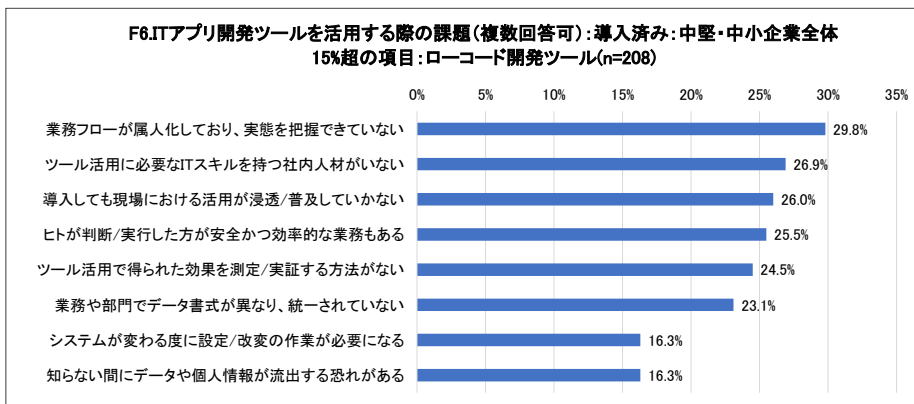


## 第4章: ユーザ企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ

中堅・中小のユーザ企業がRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際に直面する課題や求めているニーズは何か？を導入済み/導入予定の区分別および年商規模別に集計している。

例えば、右記のグラフは中堅・中小企業全体においてローコード開発ツールを導入済みのユーザ企業が抱えている課題項目のうち、回答割合が15%超の項目を集計したものだ。

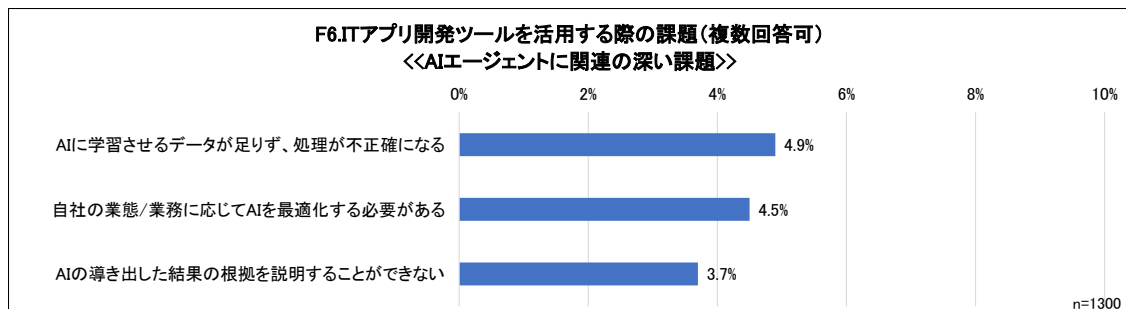
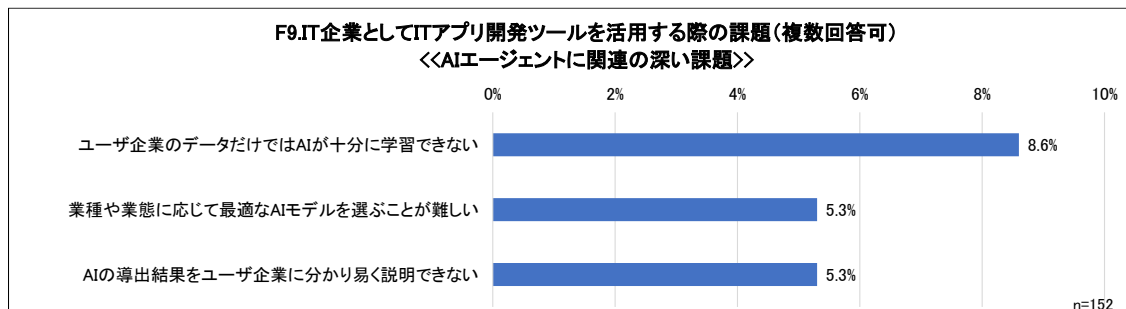
同じようにRPAツール、ノーコード開発ツール、AIエージェントを導入済み/導入予定のユーザ企業がどのような課題もしくはニーズを抱えているか？を年商規模別に集計し、回答割合の多い項目は何かを明らかにしている。



## 第5章: IT企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ

第4章ではユーザ企業が抱える課題やニーズを集計/分析しているが、第5章ではIT企業側がシステム開発/運用においてRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題やニーズを集計している。また、必要に応じて第4章で述べたユーザ企業が抱える課題/ニーズとの比較も行っている。

例えば、以下の2つのグラフのうちで上段はIT企業が考えるAIエージェント活用における課題、下段はユーザ企業が考えるAIエージェント活用における課題(中堅・中小企業全体の集計結果)である。



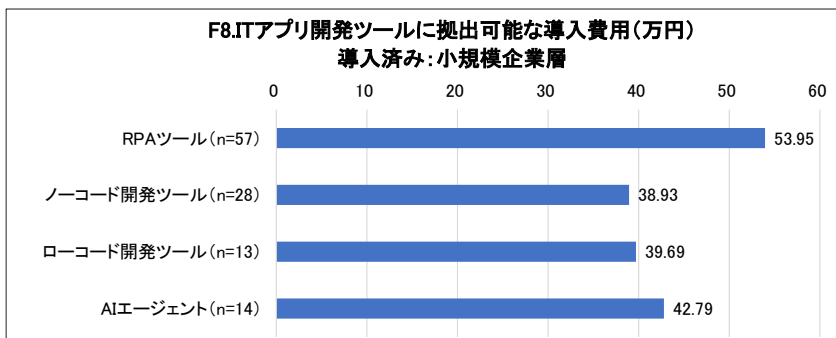
ユーザ企業側とIT企業側のいずれも「AIに学習させるためのデータが不足している」という課題の回答割合が最も高いことが確認できる。このように様々な観点からITアプリ開発ツール活用におけるIT企業とユーザ企業の共通点や相違点を集計/分析している。

## 第6章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入費用

第6章ではRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを導入済み/導入予定のユーザ企業が抛出可能な導入費用を尋ねた結果を集計している。(「導入費用」の定義は「本調査レポートの設問項目」を参照)

例えば、右記のグラフは小規模企業層において各ITアプリ開発ツールを導入済みのユーザ企業に対して、実際に抛出した導入費用を尋ねた結果を集計したものだ。

同じように各ITアプリツールを導入予定のユーザ企業に対し、抛出予定の導入費用を尋ねた結果も年商規模別に集計している。



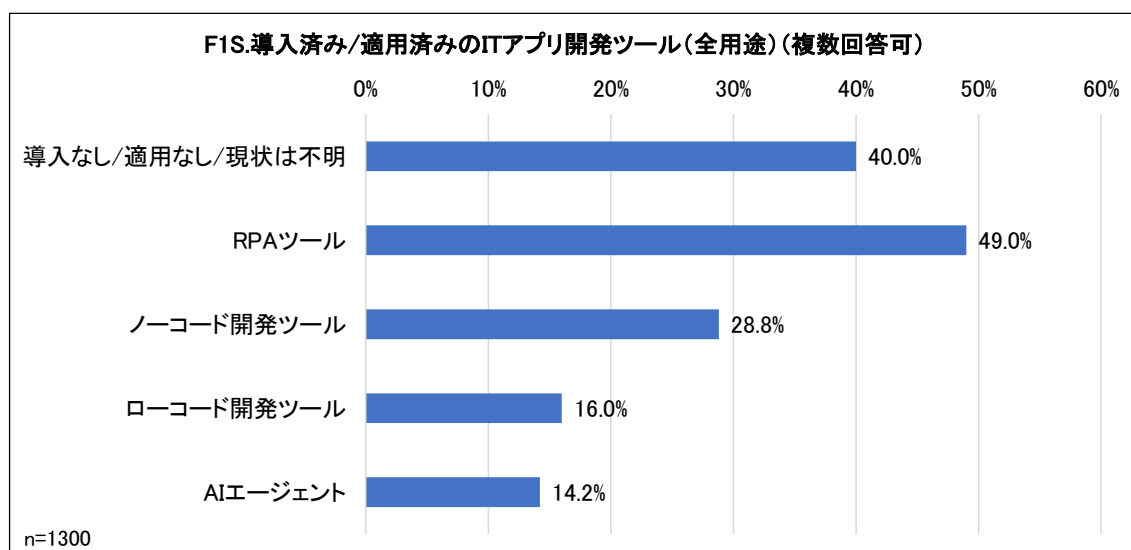
## レポート試読版1:「分析サマリ」の具体例(1/2)

本調査レポートにおける分析/提言の要旨をまとめた「分析サマリ(PDF形式)」は3ページに記載したように6つの章で構成されている。以下は分析サマリ第1章の冒頭を抜粋したものだ。

### 第1章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合

本章では中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合を年商別や適用対象となる10分野の業務アプリケーション毎に確認していく。

以下のグラフは業務アプリケーション分野に依らず、何らかの用途でITアプリ開発ツールを導入済み/適用済みである割合を中堅・中小企業全体で集計した結果である。(集計データ¥分析サマリ掲載データ.xlsx 「第1章-1」シート)



「導入なし/適用なし/現状は不明」は40.0%であることから、逆に中堅・中小企業全体の60.0%はいずれかのITアプリ開発ツールを既に利用していることになる。

RPAツールは4通りのITアプリ開発ツールの中では最も早く注目が集まったこともあり、導入済み/適用済みの割合は49.0%と半数弱に達している。その後、ノーコード/ローコード開発ツールというキーワードが登場したが、前者の方が後者と比べて導入済み/適用済みの割合は高い。

企業数の多い低年商帯では比較的安価で手軽なノーコード開発ツールが選択されやすいためと考えられる。AIエージェントはIT企業の間で新たな訴求分野として高い期待を集めているが、市場はまだ黎明期の状態と言える。そのため、導入済み/適用済みの割合は14.2%に留まっている。とは言え、ローコード開発ツール(16.0%)との差は小さい。登場してから間もない新しいIT商材としては、普及スピードが比較的早いと捉えることもできる。

<<以下、省略>>

禁転載/禁抜粋: Copyright©2025 by Nork Research Co.,Ltd. All Rights Reserved.

## レポート試読版2:「分析サマリ」の具体例(2/2)

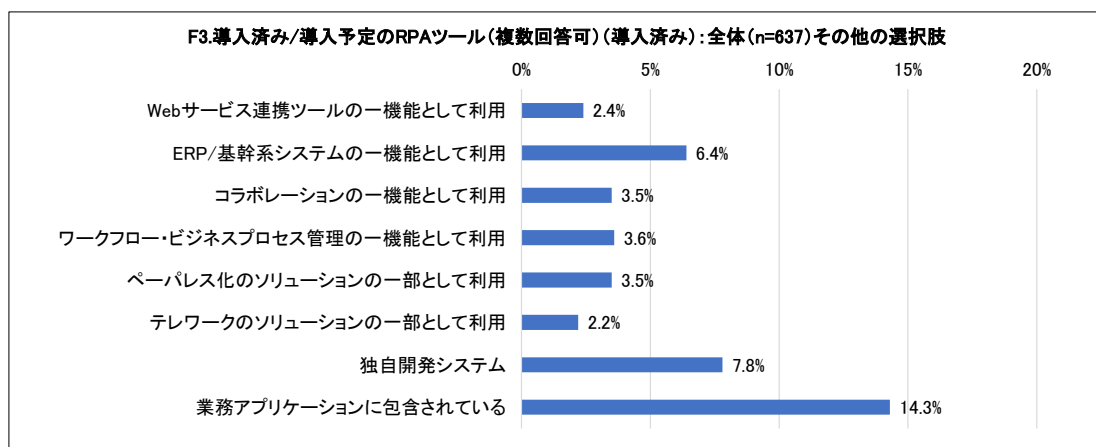
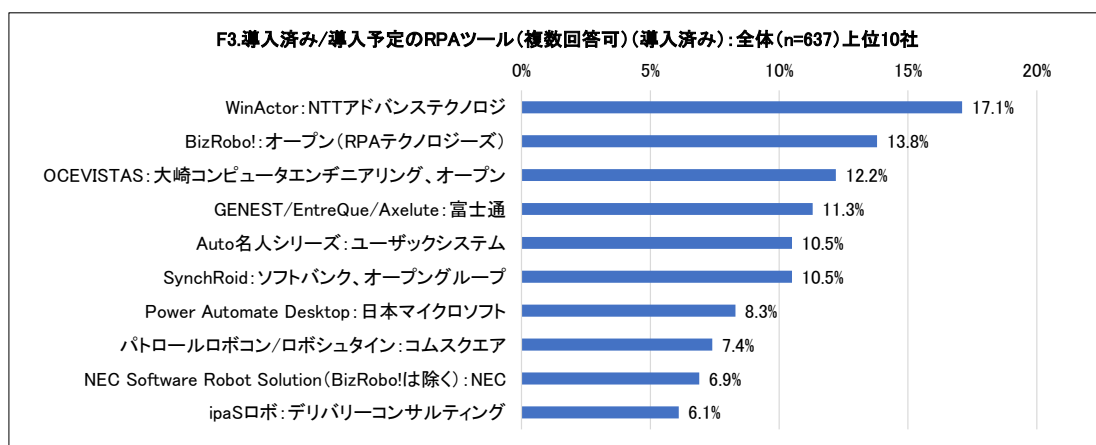
本調査レポートにおける分析/提言の要旨をまとめた「分析サマリ(PDF形式)」は3ページに記載したように6つの章で構成されている。以下は分析サマリ第3章の冒頭を抜粋したものだ。

### 第3章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の社数シェア

本章ではRPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの4区分について、導入済み/導入予定の社数シェアを年商別に確認していく。<<中略>>

#### RPAツールの社数シェア

以下のグラフは「RPAツールを導入済み」と回答したユーザ企業に対し、設問F3「導入済み/導入予定のRPAツール」を尋ねた結果を中堅・中小企業全体で集計し、上位10社(上段のグラフ)と「その他」の選択肢(下段のグラフ)を抜粋したものだ。つまり、RPAツールの導入済み社数シェアを示した結果である。(集計データ¥分析サマリ掲載データ.xlsx 「第3章-1」シートグラフに記載のない製品/サービスの社数シェアも同シートで確認できる)



「WinActor」が15%超で首位となっており、2位以降は僅差となっている。ただし、10%超の社数シェアを持つ2位~6位のうちで「BizRobo!」「OCEVISTAS」「SyncRoid」はいずれも「BizRobo!」を開発/販売するオープンおよびオープングループが関わっている。そのため、RPAツールの導入済み社数シェアは「WinActor」を持つNTTアドバンステクノロジーと「BizRobo!」および他社との協業で同市場を攻めているオープン/オープングループの2強体制となっている。

<<以下、省略>>

# レポート試読版3:「主要分析軸集計データ」

「本調査レポートの設問項目」に掲載した設問を年商、業種、従業員数、所在地などの基本属性を軸として集計した結果が、「主要分析軸集計データ」であり、Microsoft Excel形式で収録されている。以下に掲載したものは「A6. IT管理/運用の人員体制」を集計軸として、「ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズ(設問F6、F7、F9、F10)」を集計した結果の一部である。

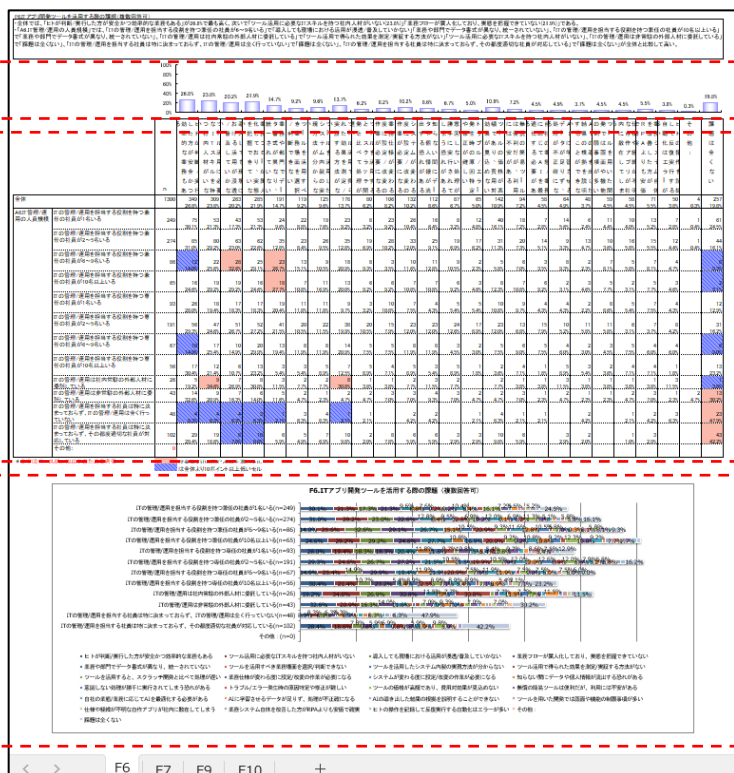
以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F6~F7&F9~F10】(【A6】表側).xlsx』となっている。ファイル名の【F6~F7&F9~F10】の部分は集計対象となる設問(表頭)が設問F6、F7、F9、F10であることを示している。また、(【A6】表側)の部分は集計時の軸となる設問(表側)が「A6.IT管理/運用の人員規模」であることを示している。このようにファイル名を見ることで、集計対象となっている設問は何か? その際の軸となっている企業属性は何か? を把握することができる。

「A6.IT管理/運用の人員規模」の選択肢は以下の通りである。

- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が1名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が2~5名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が6~9名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が10名以上いる
- ・ITの管理/運用は社内常駐の外部人材に委託している
- ・ITの管理/運用は非常駐の外部人材に委託している
- ・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、ITの管理/運用は全く行っていない
- ・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、その都度適切な社員が対応している
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が1名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が2~5名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が6~9名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が10名以上いる

したがって、『【F6~F7&F9~F10】(【A6】表側).xlsx』の結果を見ることで、IT管理/運用を担う人材が1名の場合(ひとり情シス)、2~5名、6~9名、10名以上の場合、さらに専任/兼任の違いによって、RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの活用における課題やニーズがどう異なるか? を把握することができる。同様に年商別の傾向は『【F6~F7&F9~F10】(【A1】表側).xlsx』、業種別の傾向は『【F6~F7&F9~F10】(【A4】表側).xlsx』で確認できる。(A1が年商区分、A4が業種区分を表す)

本調査レポートの設問はF1系列(13設問)、F2系列(13設問)、F3系列(2設問)、F4系列(2設問)、F5系列(2設問)、F6、F7、F8、F9、F10の合計37設問で構成されている。一方で、表側となる属性は「A1.年商」「A2.職責」「A3.従業員数」「A4.業種」「A5.所在地」「A6.IT管理/運用の人員規模」「A7.ビジネス拠点の状況」の7項目である。したがって、本調査レポートに収録されている「主要分析軸データ」の集計データ数は37設問×7属性=259シートに達する。(ただし、「年商20億円以上~50億円未満かつ組立製造業」などのように2つ以上の属性を掛け合わせたものを軸とした集計結果は本レポートの標準には含まれない)



個々のシートは左記のようなレイアウトになっている。

- ※1 画面上部: ※1 軸を設定していない状態の縦棒グラフもしくは横帯グラフ
  - ※2 画面中央: ※2 年商や業種といった属性軸を設定して集計した結果の数表データ
  - ※3 画面下部: ※3 画面中央の数表データを横帯グラフで視覚化したもの
- ※3 集計データの種類や命名規則などの詳細は本ドキュメントの16~18ページを参照

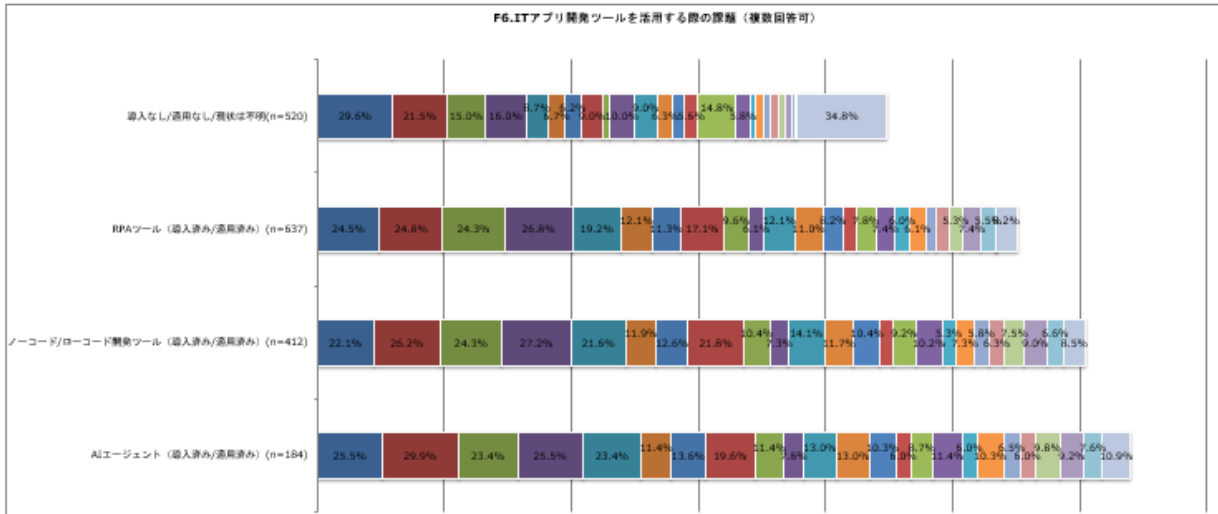
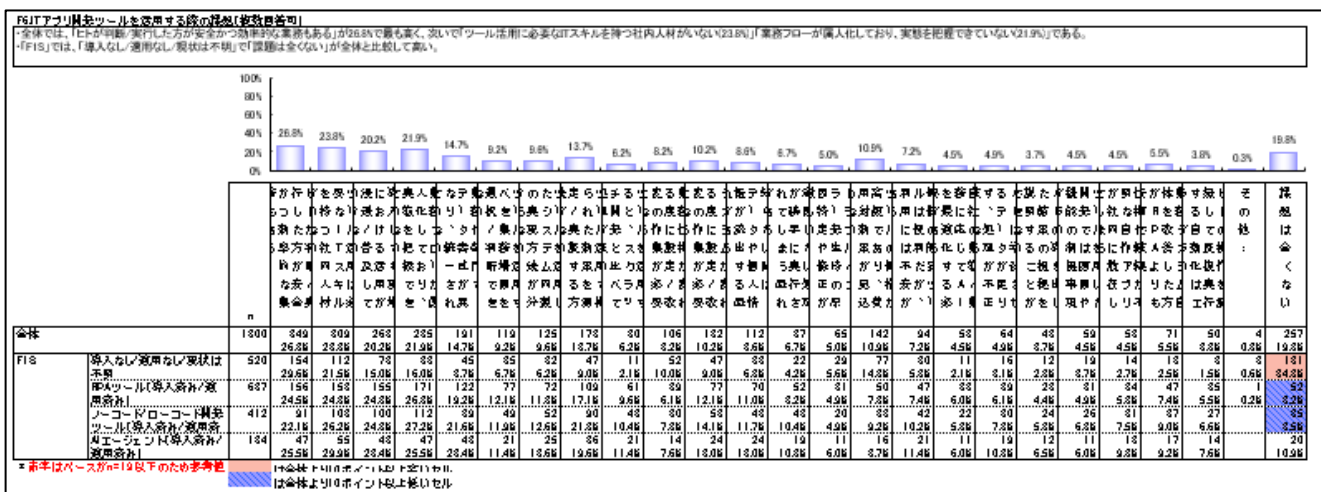
# レポート試読版4:「質問間クロス集計データ」

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」であり、「主要分析軸集計データ」と同様にMicrosoft Excel形式で同梱されている。

以下に掲載したものは、「ITアプリ開発ツールを活用する際の課題やニーズ(設問F6、F7、F9、F10)」を設問「F1S.導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール」を軸として集計した結果の一部である。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F6~F7&F9~F10】(【F1S】表側).xlsx』となっている。ファイル名の【F6~F7&F9~F10】の部分は集計対象となる設問(表頭)が設問F6、F7、F9、F10であることを示している。また、(【F1S】表側)の部分は集計時の軸となる設問(表側)が「F1S.導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール」であることを示している。このファイルを見ることで、RPAツール、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントといったITアプリ開発ツールの種別の違いによってユーザ企業およびIT企業が抱える課題やニーズがどう異なるか?を把握することができる。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦棒グラフもしくは横帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載される。こうした書式は前頁の主要分析軸集計データと同様である。



- E1Eが判断/実行した方が安全かつ効果的
- ツール活用に必要なITスキルを持つ社内人材がない
- 導入しても現場における活用が浸透/普及していない
- 業務フローが個人化しており、実態を把握できていない
- 業務/部門でデータ書式が異なり、統一されていない
- ツールを活用すべき業務範囲を選択/判断できない
- ツールを活用したシステム内製の実現方法が分からない
- ツール活用で得られた効果を確認/実証する方法がない
- ツールを活用すると、スクリーン開発と比べて負担が重い
- 業務仕様が変更する度に設定/変更の作業が必要になる
- システムが変更する度に設定/変更の作業が必要になる
- 知らない間にデータや個人情報が出るとの恐れがある
- 意図しない結果が勝手に実行されてしまう恐れがある
- エラー/エラー発生時の原因特定や修正が難しい
- ツールの価格が高額であり、費用対効果が見込めない
- 無償の代替ツールは便利だが、利用には不安がある
- 自社の実業/業務に応じてAIを最適化する必要がある
- AIに学習させるデータが足りず、結果が不正になる
- AIの導き出した結果の根拠を説明することができない
- ツールを用いた開発では画面や機能の制限事項が多い
- 社中や組織が不明な自前アプリが社内に存在してしまう
- 業務システム自体を改造した方がRPAよりも安価で実装
- E1Eの操作を記録して反復実行する自動化エラーが多い
- その他
- 課題は全くない

# レポート試読版5: 公開リリース(サンプル/ダイジェスト)

前頁までに掲載した紹介資料に加えて、ノークリサーチのホームページ上では各種調査レポートのサンプル/ダイジェストをリリースとして公開している。本調査レポートに関連するリリースは以下の通りである。

## 中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード/ローコード開発、AIエージェントの導入状況

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool_rel1.pdf)

- 導入済みの割合はRPA: 49.0%、ノーコード: 28.8%、ローコード: 16.0%、AIエージェント: 14.2%
- ローコード開発ツールの導入済み割合は年商規模が大きくなるにつれて2倍ずつ増加する
- AIエージェントの適用済み割合が若干高いアプリ分野はコラボレーション/CRM/文書管理

**PRESS RELEASE** 掲載記事一覧


**中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード/ローコード開発、AIエージェントの導入状況**

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード/ローコード開発、AIエージェントの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 導入済みの割合: RPA: 49.0%、ノーコード: 28.8%、ローコード: 16.0%、AIエージェント: 14.2%
- 導入予定の割合: RPA: 12.5%、ノーコード: 15.2%、ローコード: 10.8%、AIエージェント: 18.5%

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード/ローコード開発、AIエージェントの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



ツール種別	導入済み (%)	導入予定 (%)
RPA	49.0	12.5
ノーコード	28.8	15.2
ローコード	16.0	10.8
AIエージェント	14.2	18.5

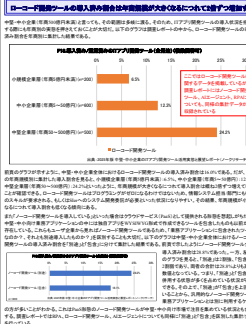
**ローコード開発ツールの導入済み割合が年商規模が大きくなるにつれて増加する**

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるローコード開発ツールの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 導入済み割合: 年商100万円未満: 12.5%、年商100万円～499万円: 18.5%、年商500万円～999万円: 25.5%、年商1000万円以上: 35.5%

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるローコード開発ツールの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



年商規模	導入済み (%)
年商100万円未満	12.5
年商100万円～499万円	18.5
年商500万円～999万円	25.5
年商1000万円以上	35.5

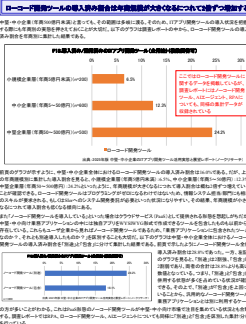
**ローコード開発ツールの導入済み割合が年商規模が大きくなるにつれて増加する**

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるローコード開発ツールの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 導入済み割合: 年商100万円未満: 12.5%、年商100万円～499万円: 18.5%、年商500万円～999万円: 25.5%、年商1000万円以上: 35.5%

本調査レポートは、中堅・中小企業におけるローコード開発ツールの導入状況を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、年商100万円以上の中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



年商規模	導入済み (%)
年商100万円未満	12.5
年商100万円～499万円	18.5
年商500万円～999万円	25.5
年商1000万円以上	35.5

## ノーコード/ローコードやAIエージェントでユーザ企業とIT企業が抱える課題の相違点と共通点

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool_rel2.pdf)

- 「RPAやノーコードを補う」という視点では、ローコード開発ツールの訴求は上手く行かない
- IT企業は「ツールの浸透」「業務フロー把握」を課題と考えるが、ユーザ側の認識は異なる
- AIエージェント活用においてユーザ企業とIT企業に共通する最大の課題は「データの整備」

**PRESS RELEASE** 掲載記事一覧

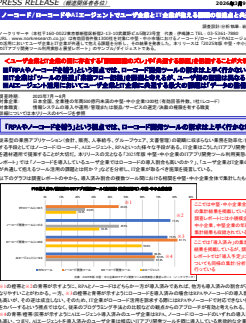
**ノーコード/ローコードやAIエージェントでユーザ企業とIT企業が抱える課題の相違点と共通点**

本調査レポートは、ノーコード/ローコードやAIエージェントの導入状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 導入済みの割合: RPA: 49.0%、ノーコード: 28.8%、ローコード: 16.0%、AIエージェント: 14.2%

本調査レポートは、ノーコード/ローコードやAIエージェントの導入状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



ツール種別	導入済み (%)
RPA	49.0
ノーコード	28.8
ローコード	16.0
AIエージェント	14.2

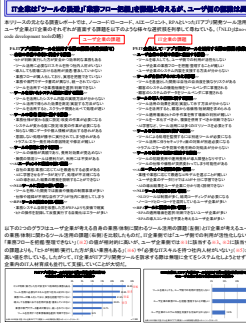
**IT企業とユーザ企業が抱える課題の相違点と共通点**

本調査レポートは、IT企業とユーザ企業が抱える課題の相違点と共通点を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- IT企業の課題: ツールの浸透、業務フロー把握
- ユーザ企業の課題: データの整備、業務フロー把握

本調査レポートは、IT企業とユーザ企業が抱える課題の相違点と共通点を調査した結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



課題	IT企業 (%)	ユーザ企業 (%)
ツールの浸透	45.0	15.0
業務フロー把握	35.0	35.0
データの整備	15.0	45.0

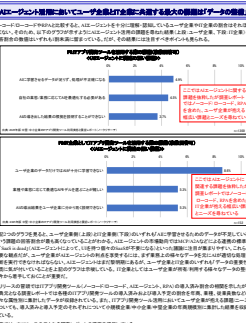
**AIエージェント活用においてユーザ企業とIT企業に共通する最大の課題は「データの整備」**

本調査レポートは、AIエージェントの活用状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 最大の課題: データの整備 (45.0%)

本調査レポートは、AIエージェントの活用状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



課題	割合 (%)
データの整備	45.0
ツールの浸透	15.0
業務フロー把握	15.0

## 中堅・中小企業におけるAIエージェントやノーコード開発ツールの導入社数シェア動向

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool\\_rel3.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool_rel3.pdf)

- AIエージェントの社数シェアでは「Microsoft Copilot Studio」と「Google Agentspace」が優位
- ローコード開発ツールを導入予定の中小企業では「kintone」や「Power Apps」がシェア上位
- 小規模企業層ではRPAツールにおける投資対効果の教訓によって、導入費用が抑制傾向

**PRESS RELEASE** 掲載記事一覧


**AIエージェントの社数シェア動向**

本調査レポートは、AIエージェントの社数シェア動向に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 優位なツール: Microsoft Copilot Studio, Google Agentspace

本調査レポートは、AIエージェントの社数シェア動向に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



ツール	社数シェア (%)
Microsoft Copilot Studio	45.0
Google Agentspace	35.0

**ローコード開発ツールの導入社数シェア動向**

本調査レポートは、ローコード開発ツールの導入社数シェア動向に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 導入予定のツール: kintone, Power Apps

本調査レポートは、ローコード開発ツールの導入社数シェア動向に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



ツール	社数シェア (%)
kintone	45.0
Power Apps	35.0

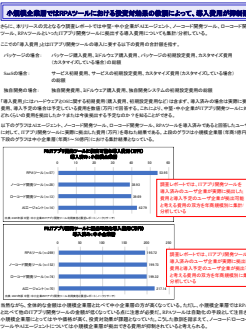
**小規模企業層ではRPAツールにおける投資対効果の教訓によって、導入費用が抑制傾向**

本調査レポートは、小規模企業層におけるRPAツールの導入状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。

**調査結果の概要**

- 傾向: 導入費用の抑制

本調査レポートは、小規模企業層におけるRPAツールの導入状況に関する調査結果をまとめたものである。調査対象は、中堅・中小企業であり、調査期間は2024年10月1日～2025年1月31日である。



ツール	社数シェア (%)
Microsoft Power Automate	45.0
UiPath	35.0

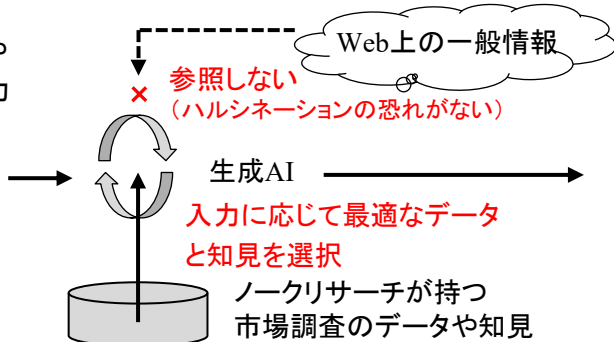
次頁では、その他の調査関連サービスを掲載している。

## 各種の関連サービス

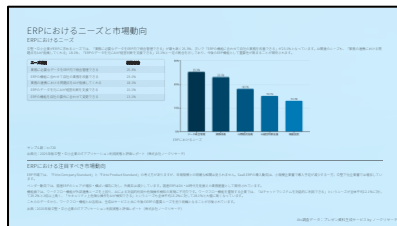
入力された企画案や販促アピールを元に、ノークリサーチの市場調査データや知見が盛り込まれたPPTX資料を自動生成

### AI×市場データ:プレゼン資料生成サービス

製品/サービスの企画案やアピールをブラウザで入力



実績のある市場調査のデータや知見を組み込んだプレゼン資料を自動生成

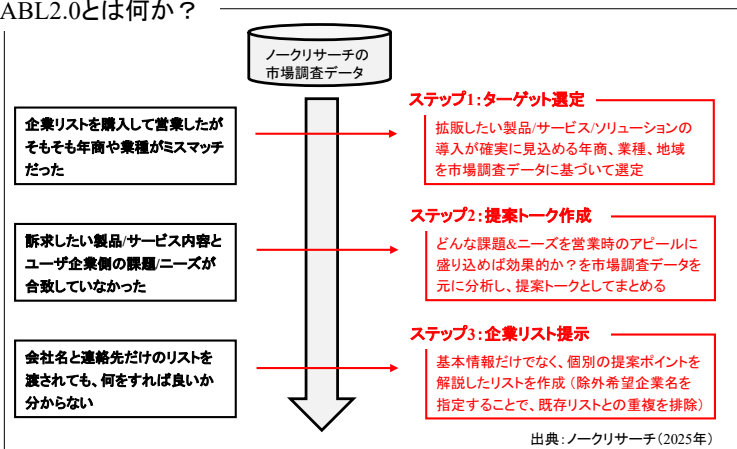


事例で分かるサービス紹介動画:  
サービス詳細と無償のお試し版:

[https://www.norkresearch.co.jp/result/pmc\\_movie\\_lg.mp4](https://www.norkresearch.co.jp/result/pmc_movie_lg.mp4)  
[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026pmc\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026pmc_rel1.pdf)

## 市場調査データを元にターゲット選定/提案トーク作成/企業リスト提示を行う『ABL2.0』

ABL2.0とは何か?



サービス案内と実施の具体例を以下でご覧いただけます。

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025ABL20\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025ABL20_rel.pdf)

ターゲットに沿った提案トークを含む企業リストの具体例

企業名	株式会社DEスタイル
設立年	1964年
資本金	5億円
売上高	45億円(2025年1月期)
決算月	1月
従業員数	436名(2025年2月現在)
上場有無	未上場
所在地	大阪府大阪市**区**町 1-1-1
ホームページ	<a href="https://www.destyle.**.**">https://www.destyle.**.**.**</a>
メールアドレス	info@destyle.**.**.**
Webフォーム	<a href="https://www.destyle.**.**.**/contact.html">https://www.destyle.**.**.**/contact.html</a>
電話番号	06-****-****
業態と特徴	衣料素材の卸問屋として創業し、近年ではアパレルの企画/開発/生産/販売を一気通貫で担うビジネスを展開。試作品段階では3Dモデリングを積極的に活用するなど、DXやSDGsに対する意識が高い。 参照ページ: <a href="https://www.destyle.**.**.**/profile.html">https://www.destyle.**.**.**/profile.html</a>
提案時のポイント	「AI需要予測を用いた在庫管理ソリューション」の提案トーク解決が有効な課題: C.1: 仕入先の倒産リスク C.2: 勤や経験による管理関連性の高いニーズ: D.3: センサによる入出庫記録  DXへの取り組みが進んでいるため、C.2の課題は既にクリアされており、D.3についても既に着手済みの可能性が高い。素材の調達先には海外企業も多いため、地政学的な情報も含めてC.1を分析できるソリューションを提示することが有効。

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。  
引用・転載のポリシー: <https://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

**NORKRESEARCH**

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室  
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881  
Mail: [inform@norkresearch.co.jp](mailto:inform@norkresearch.co.jp)  
Web: [www.norkresearch.co.jp](http://www.norkresearch.co.jp)